

競 技 注 意 事 項

1. 規 則

競技は 2026 年度(公財)日本陸上競技連盟規則及び本大会要項、申し合わせ事項によって行う。

2. 練 習

- ①練習は危険防止に十分注意して行う。競技場内もしくは競技場外園路とする。(公園側園路は禁止。)
- ②会場への投てき物の持ち込みは禁止とし、練習は現地集合完了後、役員の指示により競技場で行う。
- ③トラック競技開始時刻の 15 分前までは競技場を開放する。
- ④フィールド競技の練習は、役員の指示により競技場で行う。
- ⑤雨天走路は招集所となるため、ウォーミングアップ場としては開放しない。
- ⑥直線種目実施時は、バックストレートをウォームアップ場として開放する。ただし、ダッシュマーカースやリレーバトン以外の用具の使用は認めない。

3. 招 集

- ①招集は雨天走路内に設置した招集所で行う。
- ②招集は競技者系の指示に従い、本人が受けること。
- ③招集時間および完了時間は下記の通りとする。

種 目		招集開始時刻	招集完了時刻
トラック競技		競技開始30分前	競技開始15分前
フィールド 競技	走高跳・走幅跳・砲丸投	競技開始45分前	競技開始30分前
	棒高跳・円盤投	競技開始60分前	競技開始45分前

- ④招集完了時刻(移動開始時刻)に遅れた競技者は、当該競技種目を棄権とみなして処理する。
- ⑤競技者は、招集開始時刻から招集所において最終確認を受ける。その際、アスリートビブス、競技用シューズ、衣類の点検を受け、そのまま待機し、招集完了時刻に移動開始する。
- ⑥トラック種目の競技者は、競技者係から腰ナンバーカードを受け取り、右腰部につけること。(リレー競技は第4走者のみ)
- ⑦出場する種目を棄権する場合、招集開始時刻までに、競技者係(招集所)に申し出ること。
- ⑧複数種目を兼ねて出場する場合には、その旨を競技役員に申し出ること。
- ⑨ウォーミングアップ中のケガ等により棄権をする場合には TIC に棄権届を提出すること

4. 入 退 場

- ①招集が完了した者は、スタート地点(ピット)に荷物をもって移動する。
- ②トラック競技はレース終了後、第1ゲートから退場するか、器具庫から室内を通り正面玄関から退場する。(本部前は競技役員の指示がない限り、通行することはできない。)
- ③フィールド競技は、終了後競技役員の指示に従い、フィールドから退場する。
- ④競技終了後、腰ナンバーカードをゴール地点にあるカゴに入れる。

5. アスリートビブス

- ①選手は JAAF 登録されたアスリートビブス(以下 AB)を使用する。OP種目に出場する選手で所有していない者は学校割り当ての仮 AB(春の顧問会議にて周知した AB)を使用する。
- ②AB は胸(腹ではない)と背に、しわにならないように四隅をしっかりとつけ、切ったり曲げたりしてはならない。ただし、跳躍競技については1枚を胸または背のどちらかにつけるだけでもよい。

6. トラック競技について

- ①100mは予選、準決勝、決勝のラウンド制で競技を行う。
- ②200m、400m、800m、110mH、100mH は予選の記録上位 8 名が A 決勝に、決勝進出者を除いた記録上位 8 名が B 決勝に進出するものとする。ただし、出場者が 16 名に満たない場合は B 決勝は行わない。
- ③1500m以上の種目はタイムレースで決勝を行う。

7. フィールド競技について

- ①走高跳と棒高跳を除くフィールド競技は、3回の試技を行い、記録上位8名でさらに3回行う。
- ②リレーと兼ねて出場する競技者は、競技者係および当該種目審判員主任に申し出てその指示に従うこと。ラウンド中の試技順の変更は、当該種目審判員主任の指示によるが、次のラウンドに移った場合はパス扱いとする。申し出を怠った競技者は棄権とみなす。
- ③棒高跳支柱移動申告について、競技者は競技開始30分前までに当該審判員に希望する支柱の位置申告をすること。もし、競技者がその位置を変更したい時は直ちに当該審判員に申告すること。
- ④走高跳・棒高跳のバーの上げ方は下表の通り。ただし、審判長の指示によって変更する場合もある。

	練習	1	2	3	4	5	6	7	8	
中学男子走高跳	1m10/1m40	1m20	1m25	1m30	1m35	1m40	1m45	1m50	1m55	中学男子は170cm以降 中学女子は145cm以降 3cmずつ上げる
中学女子走高跳	1m00/1m30	1m10	1m15	1m20	1m25	1m30	1m35	1m40	1m45	
男子四種走高跳	1m10/1m40	1m15	1m18	1m21	1m24	1m27	1m30	1m33	1m36	以降 3cmずつ
女子四種走高跳	1m00/1m30	1m10	1m13	1m16	1m19	1m22	1m25	1m28	1m31	
中学男子棒高跳	1m60/2m50	1m80	2m00	2m10	2m20	2m30	2m40	2m50	2m60	以降 10cmずつ
中学女子棒高跳	1m40/1m80	1m40	1m60	1m80	2m00	2m10	2m20	2m30	2m40	

8. 混成競技について

- ①第 1、3種目のみ、招集時刻に従い、招集所にて競技者係より招集を受けた後、現地まで移動すること。第 2、4種目の招集は招集時刻に従い現地にて行う。
- ②いかなる競技者も 1 種目でもスタートしなかった、または試技をしなかったときは、それ以降の種目の競技に参加することはできない。

9. 競技からの除外

審判長が競技運営上必要と認めた場合、レース中の競技者を中止させることがある。

10. リレー競技について

- ①リレー競技に出場するチームは、TIC からリレーオーダー用紙を受け取り、ラウンド毎に1部作成し、招集完了時刻の 60 分前までに TIC に提出すること。(顧問のサインを忘れないこと)
- ②リレー競技においては、チームの出場者は同一ユニフォームを着用することが望ましい。
- ③バトンとダッシュマーカーは、主催者側で用意したものを使用する。(バトンは第 1 走者のみ。)

11. 用 器 具

- ①棒高跳のポール以外は競技場備え付けのものを使用する。
- ②投擲物の重さは以下の表に準ずる。

種目	区分	重さ
砲丸投 (四種競技含む)	中学共通男子	4.000 kg
	中学共通女子	2.721 kg
円盤投	中学共通男子	1.500 kg
	中学共通女子	1.000 kg

- ③スパイクの長さは、走高跳は12mm、その他は9mm以下とする。
- ④シューズ(スパイク・ランニングシューズを含む)の厚さについての今大会の規定は以下の表に準ずる。

種目	靴底の最大の厚さ(TR5.2)	要件・備考
トラック種目 ハードル種目 障害物走	20mm スパイクシューズまたは ノン・スパイクシューズ	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。競技場内で行う競歩競技は、道路競技と同じとする。
フィールド種目	20mm スパイクシューズまたは ノン・スパイクシューズ	全跳躍種目で、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない(前足の中心は、靴の内部の長さの 75%にある靴の中心点。踵の中心は、靴の内部の長さの 12%にある靴の中心点)。

12. 番組編成及び結果発表

- ①各種目の番組編成及び結果発表は、アナウンスで行わず、競技場正面入り口外の掲示スペースにて掲示する。
- ②各種目の入賞は8位までとし、賞状を授与する(競技終了後、アナウンス室へ取りに来ること)。

13. 抗議

抗議をする際は、総務に申し出る。申し出については審判長、総務、競技運営部長によって判断する。

14. 表彰および学校対抗得点について

- ①個人表彰は、1位～8位まで賞状を授与する。男女総合の部、男子総合の部、女子総合の部を設け、各種目1位が8点、2位が7点・8位が1点とする。
- ②男女総合の部、男子総合の部、女子総合の部の優勝校には優勝杯および賞状、各部門の準優勝校～8位までの学校には賞状を授与する。

15. その他

- ①プログラム記載事項に訂正がある場合は、顧問が取りまとめ、プログラム訂正完了時刻までに訂正内容を持って TIC へ申し出ること。
- ②セパレートレーンを使用する競技においては、フィニッシュ後は該当レーンに沿って走り抜けること。
- ③競技場内外のアスファルト部分へスパイクで入らないこと。また、競技場内の芝生内やスタート位置後方、フィニッシュ位置前方に立ち入らないこと。
- ④競技中に発生した事故などについては主催者側で応急処置を行うが、以後の責任は負わない。また、体調が悪くなった者は医務員の指示に従うこと。
- ⑤更衣室では更衣のみを行い、私物等を置かないこと。
- ⑥各自の持ち物については自分自身で責任をもって管理し、盗難に注意すること。
- ⑦大会主催者から指定された場所以外での陣地設営は禁止する。
- ⑧競技場内の陣地設営は芝生スタンド内とする。
- ⑨テントやタープは、ロープなどを使って手すりなどに固定し、強風で飛ばないようにすること。
- ⑩横断幕を設置する場合は、メインスタンド最上段の手すりのみとする。
- ⑪のぼりを設置する場合は、メインスタンドサイド階段フェンス部分のみとする。
- ⑫スターターより「ON YOUR MARKS」がかかったら、選手が集中できるように競技場全体で音を出さないように配慮すること。スタートの付近では特に気をつけること。
- ⑬スタート動作において遅延行為があった場合、1回目は「注意(グリーンカード)」、2回目は「警告(イエローカード)」、3回目は「失格(レッドカード)」とする。ただし、遅延行為の回数については、個人についてカウントするものとする。また、「警告」や「失格」については、同一種目に持ち越すものとする。
- ⑭競技者が号砲前にグラウンド(地面)及びフットプレートから手や足を離した場合、不正スタート(フライング)となり、当該競技者は失格となる。
- ⑮熱中症予防対策として、日本スポーツ協会が定める熱中症予防運動指針に従い、WBGT31℃を超えた場合には競技を中断し、本部で協議する。原則として WBGT31℃以下になるまで競技は中断とし、中断時間が2時間を超える場合には本大会の以後の競技については中止とする。
- ⑯雷鳴が聞こえた際は速やかに競技を中断し、屋根のある場所へ避難する。競技の再開については大会本部にて検討を行い、放送で発表を行う。
- ⑰生徒による携帯電話・スマートフォン・ビデオカメラ・音楽再生機器等の電子機器の使用は禁止とする。
- ⑱保護者の撮影はメインスタンドのみ可とする。スタンドで立ち上がって撮影する場合はスタンド最上段からのみとする。なお、棒高跳に関してはバックストレート側テニスコート脇園路からの撮影とする。
- ⑲指導者による撮影は指導に生かすための撮影のみ可とする。
- ⑳撮影した写真・動画の取扱いについては、競技者のプライバシー及び安全に十分配慮し、本人及び保護者の同意なく、SNS、動画共有サイト、ウェブサイト等へ投稿・掲載することを禁止する。